

恐怖の赤頭巾と ちゃんちゃんこ

ついに着たくないものを着せられる羽目になってしまった。三月二十八日の土曜日、上智大学ロシア語学科の同級生で還暦を祝う会のイベントがあり、本来、卒業も出来ていない自分が顔を出すのも気が引けたが、折角お声がかかったのでノコノコ出かけていった。四谷のお岩神社の近くの由緒ある須賀神社で還暦の御祓いを受けた後、近くの小さなスナックを借り切った懇親会の席上、一年上の先輩



で何故か同学年（つまり留年組みという事だが）だった現新潟市長の篠田さんが、わざわざあの忌わしき赤のちゃんちゃんこ、のみならず赤頭巾まで持ってきたのだ。そもそも正確に言うとなんか自分は一九五〇年の二月生まれで還暦は来年であり、まだそんな格好はしたくないと抵抗したが、あえなく好々爺の姿にさせられてしまった。まさに団塊の世代のお尻の人たちが、還暦を迎えたのである。

同じ日の朝、高校時代の下宿の先輩が、会社に訪ねて来た。当時の長野県は大学区制であり、長野県全域から松本深志高校に来ていたので下宿生が多かった。そういう自分も四賀村という交通の便の悪い山村の出身だったので、親に頼んで松本市内に下宿させて貰っていた。その下宿の隣の部屋で一年上の先輩が定年になったからと遊びに来たのである。とりあえず職業訓練所に通って壁紙職人の講習を受けて見るが、さて何をやるのか？という相談である。大量の団塊の世代が

清野吉光氏のコラム

団塊 耕 志 録 第7回

清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国語部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアリスト代表取締役社長に新任。現在に至る。



団塊世代と 還暦と志

還暦を迎え、また定年を迎えている。皆一様に元気で、また様々な経験を積んでいけるのだが、さて何をしたのかと戸惑っている。「団塊の世代」という言葉の産みの親である元経済企画庁長官の堺屋太一氏が盛んに強調することだが、この団塊の世代が今後どのように動くかが日本のこれからを決める大きな要因である。還暦を迎え、言わば消えて行く世代が大きな影響を持つというのは奇妙な話だが、やはりポリウムの大きさと、その背負っている歴史的背景にもよるのだろう。この世代がそのまま年金生活者として単なるお荷物に終わるのでは、あまりにも若い世代と日本社会への負荷が大きすぎる。逆にそれまでの蓄積したノウハウを企業やNPO、NGOなどの活動で積極的に生かしてくれば日本社会の活性化につながり、高齢化社会における新しい姿を世界に指し示す事ができるのではないだろうか？そして団塊世代にはその責任と義務があるのではないかと思う。

団塊世代の思想

団塊世代と言え一九七〇年代後半から一九七〇年前半にかけて、全共闘運動を経験した世代である。もちろんいろいろな立場があったし、評価もまちまちである。そして何よりもその全共闘運動を担った当事者からの総括が提示されず、その後の自分の生き方との関係も曖昧のまま、忘れ去られているのが現状だと思ふ。かくいう自分もその辺を曖昧にしたまま、とりあえず生きてきたというのが現実である。もちろん若気の過ちだとか、世の中が変わってしまったからだとかいい訳はできるし、そんな総括などしても現実の生活に何の役に立たんかとは思ふが、しかし、還暦を向かえ、せめて孫に（自分は残念ながらもまだ孫は居ないが…）おじいちゃんはい昔こんなつもりでこんな事をやったが、結果こんな失敗をして、こんな反省をしている、でもこれだけは自負をしているし、誇れる事だよ。だから今おじいちゃんにはこんな志を持って、お



まえ(孫)の世代のために、些細だけどこんな事をしようとしていたんだよ!と語られるようになりたいたいと思っ
ているし、成るべきである
と思う。

では自分が思う全共闘運動の思想的核は何かという、自己否定自己革新の思想運動だと思ふ。それまでの大衆的な政治運動は基本的に自己の利益の追求の運動だと思ふ。虐げられ、貧しい人たちが、自己の権利と利益の獲得を目指して政治運動を展開する。しかし全共闘運動は様々な様相を呈してはいたが、その運動を支えた心情はむ

しろ自分の特権的地位を否定し、より全体の為に自己を変えていこうとする精神だったと思ふ。したがって政治運動というより、文化運動という色彩が色濃くあった。だからこそ、それに自足し、その政治的稚拙さゆえに衰退したとも言えるのかも知れない。当時の時代の雰囲気であったベトナム反戦と中国文化大革命への共感も、多分に知識人のあり方への自己批判的な文化運動としてものであったと思ふ。その後の中国文化大革命の悲惨な事実や社会主義市場経済の実態を目にして、ある種の虚しさは禁じ得ない。しかし、現在の利己主義に駆られた米国の強欲資本主義の破綻を見るにつけ、やはり人間の精神的あり方を問うものとしての文化運動は絶対必要だと感ずるし、そして企業とボランティアが融合した社会企業家が登場しているとき、あらためて全共闘運動に決起するときの心情を思い起こすべきだと思ふ。そして一方でベ平連(ベトナムに平和を市民連合)や全

共闘運動が持っていた寛容の精神や柔軟さが失われ、そのため人々の共感を失い、新左翼諸党派のセクト主義や内ゲバ、連合赤軍の粛清の悲劇に陥る思想的な狭さ、間違いを教訓化しなくてはならないと思ふ。いまだ上手く論証できないが、究極は、唯一絶対の神を頂く一神教的世界観から諸行無常の東洋的多神教的世界観に価値観を転換しないと、今も続く宗教戦争も含め、克服できないと思われる。その意味で日本の世界における思想的役割は大きいと思ふ。そしてその思想を、層として、実感を持ちながら実態を作り出せる可能性を持った世代が団塊の世代であり、したがって、まさに彼らには責任と義務があるのだ。何か論証もせずに断定だけを繰り返すのは恥ずかしい限りだが、還暦を迎えた自分としては、残された時間もさほど在る訳ではないので、団塊の世代の「義務と責任」に是非心して行きたいと思ふ。

リーダーシップとは共感

最近、長年世界の貧困の現場で戦ってきた世界銀行の副総裁西水美恵子さんの「リーダーシップ」をテーマとする講演を聞く機会があった。その講演の中でリーダーにとってもっとも必要なものは「先見性」でも「指導能力」でもまして「操作主義」でもなく、「共感」であり、その共感による強い思いこそがリーダーとしての資質を自ずと育ててくれるというお話であった。共感を生んだ「原体験」こそ大事であり、団塊の世代の「原体験」を再度見つめなおして行きたい。還暦とは再度生まれ変わること。だから赤ん坊が着る赤い衣服を身に着ける。還暦、定年は「上がり」ではなく新しい志を抱いて再出発の時だ! (二〇〇九・四・二〇)



西水美恵子世界銀行前副総裁

ALCmini II

Alcohol Recording System for Professional



「吹き込む」・「測定する」・「記録する」。
ALC-mini-IIで始めるカシタン3ステップの飲酒点検。

製品貸し出し
キャンペーン

好評発売中!!

コンパクトボディでプリンタ機能搭載!
3ステップの簡便性と高い測定精度を実現!!
スピーディに高精度の飲酒点検が行え、
信頼性の高いアルコール測定記録を残すことができます。

<お申し込み・お問い合わせ>

株式会社システムオリジン

TEL: 03-3834-8352

関東支店営業本部

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-3-4-7F

拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海

名古屋・関西・中国・九州

<製造元>



東海電子株式会社

<http://www.tokai-denshi.co.jp>